

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	(評価機関で記入)		
法人名	医療法人 輝寿会		
事業所名	グループホーム けいせん		
所在地 (電話番号)	福岡県嘉穂郡桂川町大字土居 875番地 1 (電話) 0948- 65- 4107		
評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡県福岡市博多区半道橋 2 - 2 - 51		
訪問調査日	平成19年9月20日	評価確定日	平成19年10月11日

【情報提供票より】(H19年 9月 1日事業所記)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 8月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9人
職員数	8人 常勤 8人, 非常勤 人, 常勤換算 8人

(2) 建物概要

建物形態	併設 / 単独	新築 / 改築
建物構造	木造 造り	1階建て, 1階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(50000 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 500 円
	夕食	500 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (9月 1日現在)

利用者人数	9名	男性 3名	女性 6名
要介護1	1名	要介護2	0名
要介護3	4名	要介護4	1名
要介護5	3名	要支援2	0名
年齢	平均 85歳	最低 69歳	最高 90歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	社会保険 稲築病院、桂川歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの周囲は田んぼが広がっており、四季の変化を感じることでできる開放的で穏やかな地域である。職員は利用者一人ひとりを尊重し、介護度が高い利用者が多い中で生き生きと勤務している。利用者は思い思いにゆったりとした時間を過ごし、穏やかな表情である。また地域に開かれたホームを目指しており、積極的に地域の行事に参加したり体験学習の受け入れなどを実施し、地域の人々とのふれあいを大切にしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価では浴室の手摺の設置や計画書の同意欄の記名捺印、申し送りノートの作成、入浴時間の検討、非難訓練の実施、市町村との連携、相談苦情窓口の明確化など、さまざまな改善項目が挙げられていたが、管理者は積極的に改善に向けて職員や市町村担当者で話し合い、ほぼ全ての項目で改善が確認できた。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は職員全体で話し合いの場を設け、意見を出し合って作成している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	前回評価を受け、今年7月と9月の二度、運営推進会議を開催している。管理者や家族代表、民生委員や包括支援センター職員などが参加し、運営推進会議の主旨やホームの現状、外部評価への取り組みについて報告や話し合いを行っている。今後の会議内容や参加者については、市町村担当者で話し合いながら進めて行く予定であり、会議を活かしてさらなるサービスの質の向上が期待できる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法、運営への反映(関連項目:外部8,9)
	面会の多い家族にはその都度話し合い、そうでない家族へは月に1度の支払いでホームを訪れる際に必ず職員と話す時間を持ち、日々の暮らしの報告とともに介護計画や利用者の反応について話し、計画に対する家族の意見を聞き、方針にずれがないよう心がけている。相談苦情窓口として管理者が担当となり対応するとともに、運営推進会議に家族も参加したり面会時に話す等、意見を得る機会を設けている。今後は家族会の開催も検討中である。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域での福祉まつりや敬老会に参加するなど、案内があれば積極的に地域へ出て行っている。また、地元の中学生を受け入れ体験学習を行うなど、地元の人々との交流に努めている。また災害時には地元の消防団が応援に駆けつけるよう連携も取れており、地域との協力体制は良好に保たれている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	わたしたちは一人一人を尊重し、入居者の立場に立って介護します」という独自の理念を掲げているが、開所当時の理念のままであり見直しはされておらず地域密着型サービスとして地域の中で暮らすという視点からの理念が掲げられていない。		地域でのホームの役割を理念として明確に掲げることで、地域密着型サービスとしてよりよいケアが行われることが期待される。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取組んでいる	毎日の申し送り時の唱和で理念を共有するとともに、月1回の会議の際に、日々利用者にとどのように接しているか、それは理念に通じるものかどうかを全員で見直していくことで、理念の実践に向けて取組んでいる。		
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域での福祉まつりに参加するなど、案内があれば積極的に地域へ出て行くようにしている。また、地元の中学生を受け入れ体験学習を行うなど、地元の人々との交流に努めている。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は職員全員で話し合い、作成されている。前回の評価での改善点については、管理者は積極的に改善に向けて働きかけ、職員と共に取り組むことでかなりの改善が見られており、評価を生かした取り組みがなされている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回評価をうけ、今年7月と9月の二度、運営推進会議を開催している。管理者や家族代表、民生委員や包括支援センター職員などが参加し、ホームの現状報告や外部評価への取り組みについて報告や話し合いが行われている。今後の会議内容や参加者については、市町村担当者で話し合いながら進めていく予定である。		

グループホーム けいせん

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は運営推進会議以外にも頻りに市町村担当者を訪ね、不安や疑問を伝え、常に話し合い、協力体制は良好に保たれている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	入居時には利用者家族全員に成年後見制度についてのパンフレットを渡している。また職員全員で勉強会を行うことで、制度が必要な利用者には説明ができる体制が整っている。		
4.理念を实践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会の多い家族にはその都度報告しているが、そうでない家族へは月に1度の支払いでホームを訪れる際に必ず職員と話す時間を持ち、金銭管理台帳や介護計画に目を通してサインをもらうとともに、利用者の暮らしぶりや健康状態について報告している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談苦情窓口として管理者が担当となり対応するとともに、運営推進会議に家族も参加したり面会時に話等、意見をj得る機会を設けている。家族会の開催も検討中である。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	これまでに体調や家庭の事情等による職員の辞職があったが、そのことをきちんと利用者へ伝え、引き継ぎを十分に行うことで利用者へのダメージを最小限に抑えるよう配慮し、特に影響は見られていない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の募集は法人で行われ、採用されてから各事業所へ配属されている。性別や年齢等で採用に影響することはなく、職員は生き生きと勤務し、その能力を發揮している。</p>		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>人権に関しては理念にも通じる部分であり、外部研修で学ぶとともに、勉強会の際には意見を出し合い、日々の関わりを全員で見直している。</p>		
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者は職員が外部研修に参加できるよう積極的に情報提供し、希望に応じて勤務の調整も行っている。月1回の勉強会では外部研修での学びを報告し合い、知識の共有を図っている。内部研修は必要に応じて実施するが、具体的に年間計画は立てられていない。</p>		<p>内部研修の年間計画を立てることで、職員全体で学ぶべき目標を明確にし、学ぶことに対する意識を高めることで、サービスの質の向上が期待される。</p>
14	22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同系列のデイサービス、老人保健施設が隣接しており、管理者、職員共に行き来があり、合同での催しや勉強会も行われている。他のグループホームとの交流はない。</p>		<p>同業者との交流は同じ悩みを共有し意見を出し合ったり、職員同士の交流や、職員を交換して1日体験を行い学びを得ることなどによるサービスの質の向上が期待できる。まずは管理者同士が集まる外部研修等を利用して関わることで、同業者間のつながりを持つきっかけ作りをすることが望まれる。</p>
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前には十分に説明を行い、希望があれば家族も一緒に仮入所も可能である。また管理者が自宅訪問を行うケースもある。入居後は利用者の状態や希望に応じて家族等が宿泊することも可能であり、徐々に馴染めるように工夫されている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は日々の関わりの中で、利用者から生活の知恵を学んだり、喜怒哀楽を共にし、支えあう関係を築いている。</p>		
<p>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>					
<p>1.一人ひとりの把握</p>					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者の言葉をそのまま記録に残し、気になることがあればそれについて職員同士で話し合い、どのような思いがあったのかを皆で検討し、思いや意向の把握に努めている。</p>		
<p>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者一人ひとりに担当の職員がおり、担当の利用者を深く観察し思いの把握に努めるとともに、家族に職員の考えや利用者の様子を伝え話し合い、介護計画や評価は家族にも見てもらうなど、利用者や家族の意向を反映した計画作りを行っている。</p>		
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>モニタリングは3ヶ月毎に行い、変化があればその都度計画を見直している。評価や見直しされた介護計画は必ず家族にも確認してもらい、意見を聞くようになっている。</p>		

グループホーム けいせん

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	初期段階での自宅訪問や、かかりつけ医への通院の介助、外出の支援など、利用者の状態や希望に応じて、柔軟な支援を行っている。		
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関だけでなく利用者希望の病院への通院も可能である。往診も希望あれば可能である。系列の歯科医師の往診もあり、希望あれば受診できる。また、町内での無料の健康診断を受け健康状態をチェックしたりして、適切な医療を受けられるよう支援している。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時や重度化が見られた際にその都度本人や家族の意向を確認し、終末期をホームで過ごす希望があれば、協力してくれる医師を確保した上で看取りまで行えるよう支える方針である。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの確保については、日々の関わりの中で職員同士で話し合い、注意を払っている。記録は事務所内のキャビネットに保管されており、カーテンで隠し外から見えないように工夫している。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日のプランはあるが、あくまでも目安であり、その日の体調や気分によって、利用者のペースで過ごしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態に応じて、できる方は一緒に食事の準備や片付けを行っている。食事介助を必要とする利用者が多く、職員は利用者の横に立ち介助しながら他の利用者に目を配っている状況であるが利用者と同じ食事がとられていない。		毎日は難しくても状況に応じて時々、職員の一人だけでも一緒に同じ食事をとることで、共に食事をする楽しみを感じられるよう工夫することが望ましい。
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間や曜日は決まっていないが、介護度の高い利用者も多く、また午前中に希望する利用者も多いため、日勤帯で実施している。夜の入浴は希望があれば調整し、できるだけ希望に添うよう工夫をしている。		
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は個別の状態に応じて食事の準備・片付けの手伝いや、洗濯等の家事をしたり書道や裁縫などの楽しみ事をして、その人らしく日々を過ごしている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出は、年間行事として月に1度、利用者全員でのバスハイクやお花見等の計画が立てられている。また、個別にその日の希望に応じて散歩や買い物等を毎日行っている。		
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの入口は、日勤帯は鍵をかけておらず、利用者や家族の出入りは自由である。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	前回の評価をうけ、日勤・夜勤を想定して2度の避難訓練を実施している。災害時には地元の消防団が応援に駆けつけるようになっており地域からの協力体制も整っている。		

グループホーム けいせん

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は同系列の老人保健施設の管理栄養士が考えており、病気等により食事制限がある利用者にも十分に対応できている。また利用者からの希望があれば献立の変更は可能である。水分はお茶や牛乳など好みに応じて摂取を促し、制限のある利用者は摂取量のチェックを行うことで、個別の状態に応じた支援を行っている。		
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は木目を基調とした温かみのある家具を使用し、散歩に行った時に摘んできた花を利用者と一緒に飾ったりして、季節感、生活感のある空間作りの工夫をしている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は全て個室で、ベッドやカーテン以外は全て利用者の持込の使い慣れた物を使用している。居室の窓からは庭や田園風景が望め、穏やかな気分で居心地よく過ごせるよう配慮されている。		